

2020年11月5日 全5頁

## 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（11/5号）

個社データ・業界統計・POSデータで足元の消費動向を先取り<sup>1</sup>

経済調査部 エコノミスト 山口 茜  
研究員 和田 恵

### [要約]

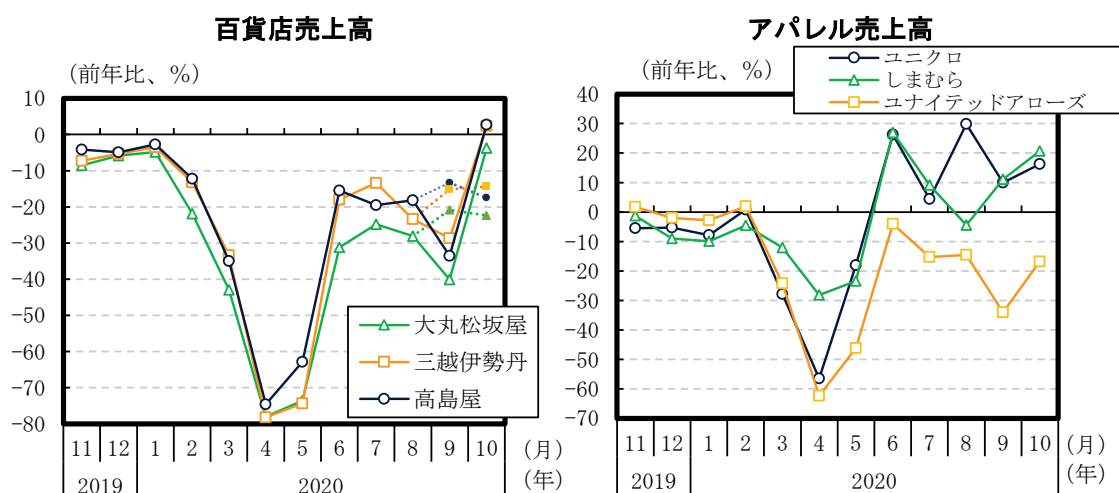
- 10月の消費は9月と同程度だったと見込まれる。財消費が減少した一方、サービス消費は増加したとみられる。財に関して、10月の家電量販店やスーパー、ホームセンター等の売上は9月から減少した。他方、サービスでは「Go To トラベルキャンペーン」の東京都への適用拡大や「Go To Eat キャンペーン」の開始などが追い風になったとみられる。
- 【小売関連】10月の大手百貨店の売上伸び率は、前年の消費増税前後の影響を除いた前々年比ベースでは概ね9月並みであった。また、10月のスーパーの売上は前月比▲5%程度、ホームセンターは同▲10%程度、家電量販店は同▲10%程度といずれも9月から減少した。家電量販店ではエアコンや冷蔵庫など幅広い品目で減少しており、特別定額給付金等による政策効果が一服したとみられる。他方、10月の新車販売台数は9月から増加した。
- 【サービス関連】10月の新幹線輸送量は前年比5~6割減程度と9月からマイナス幅が縮小した。旅客機輸送量、宿泊者数、外食売上も同様に前年比マイナス幅が縮小したと見込まれる。

<sup>1</sup> 本稿は、速報性の高い個社データ・業界統計・POSデータを基に、足元の消費動向を確認する定期レポートである（2020年4月初めから公表開始）。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の10月の既存店売上高の前年比伸び率は、2社でプラス転換、1社でマイナス幅縮小。ただし、前年同月の売上が消費増税で落ち込んだ影響が大きい。消費増税前後の影響を除いた前々年比ベースでは、9月と同様に2割減程度。
- ◆【アパレル】10月の既存店売上高伸び率は、しまむらとユニクロは前年比2割増程度とプラス幅が拡大、ユナイテッドアローズは同2割減程度とマイナス幅が縮小。気温が高かった9月から一転して平年並みとなり、秋冬物の販売が好調。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

色付きのマーカーは前々年比（三越伊勢丹と9月高島屋の前々年比は大和総研による試算値）。

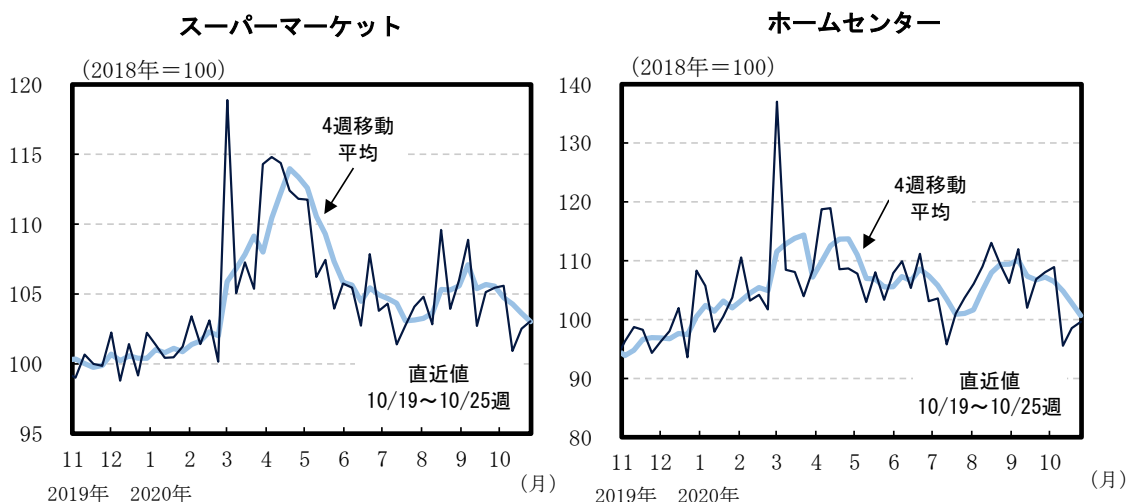
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】10月の売上は前月比▲5%程度（大和総研による季節調整値）。主力の食品売上も小幅に減少（同▲1%程度）。
- ◆【ホームセンター】10月の売上は前月比▲10%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨など幅広い品目で減少。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

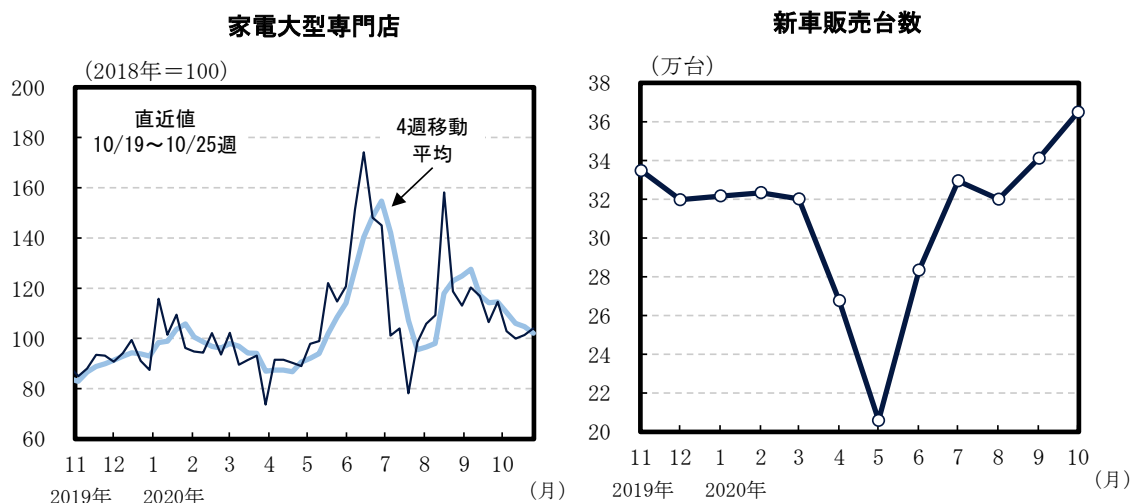


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】10月の大手家電量販店の売上は前月比▲10%程度（大和総研による季節調整値）。エアコンや冷蔵庫など幅広い品目で減少。特別定額給付金等による政策効果が一服したとみられる。
- ◆【自動車】10月の新車販売台数は9月から2.4万台増加（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

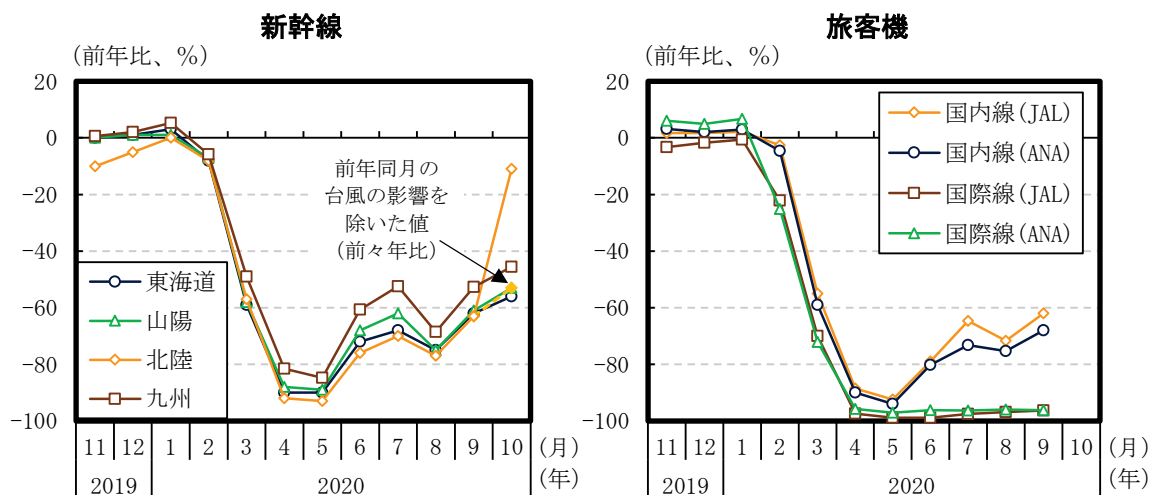
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

### <サービス関連>

- ◆【新幹線】10月の輸送量は、前年比5~6割減程度と9月からマイナス幅が小幅に縮小。（北陸新幹線は前年同月に台風で運休した影響を除くため前々年比を参照。）
- ◆【旅客機】ANA・JALグループの9月の輸送量は、国内線は前年比6~7割減程度とマイナス幅が8月から縮小。国際線は8月と変わらず同95%減程度。10月は国内線の約3~4割、国際線の約9割が運休。いずれも運航便の割合は9月から小幅に上昇。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



(注1) 新幹線の10月分は、東海道が27日まで、九州が26日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

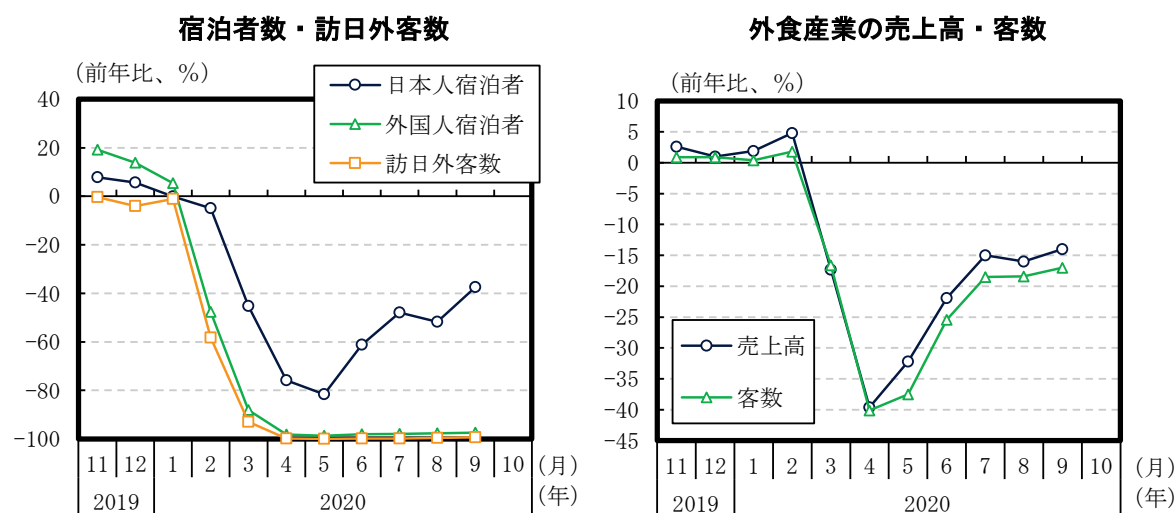
- ◆【宿泊】9月の日本人宿泊者数（宿泊日数ベース）は前年比4割減程度とマイナス幅が縮小。内閣府が公表しているV-RESASの週次データに基づく、4連休を含む月後半に宿泊者数の回復が加速。10月は「Go To トラベルキャンペーン」が東京都へ適用拡大されたことから、前年比マイナス幅がさらに縮小したと推測。

9月の外国人宿泊者数は、8月と同様にほぼゼロで推移。

引き続き入国制限を行っていることから、10月も同様の結果を見込む。

- ◆【外食】9月上伸び率は前年比15%減程度と8月から変わらず回復が頭打ち。業界コメントによると、4連休の売上は前年並みまで回復した店舗もあったものの、オフィス街等における宴会需要の低迷が重石になったとみられる。V-RESAS等のデータに基づく、10月は「Go To Eat キャンペーン」開始などの効果により9月から前年比マイナス幅が縮小したと推測。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・客数

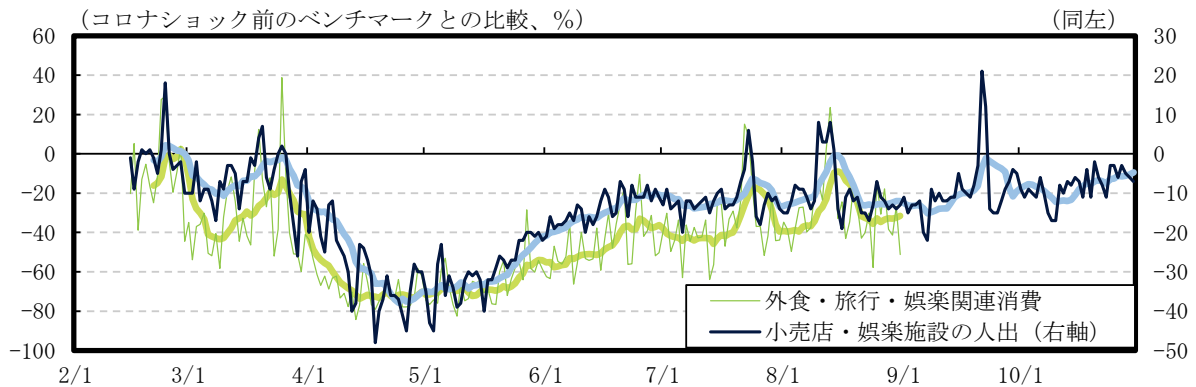


(注) 宿泊者は宿泊日数ベース。

(出所) 観光庁、日本政府観光局（JNTO）、一般社団法人日本フードサービス協会統計より大和総研作成

<参考：Google 社の位置情報データ>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出と外食・旅行・娯楽関連消費

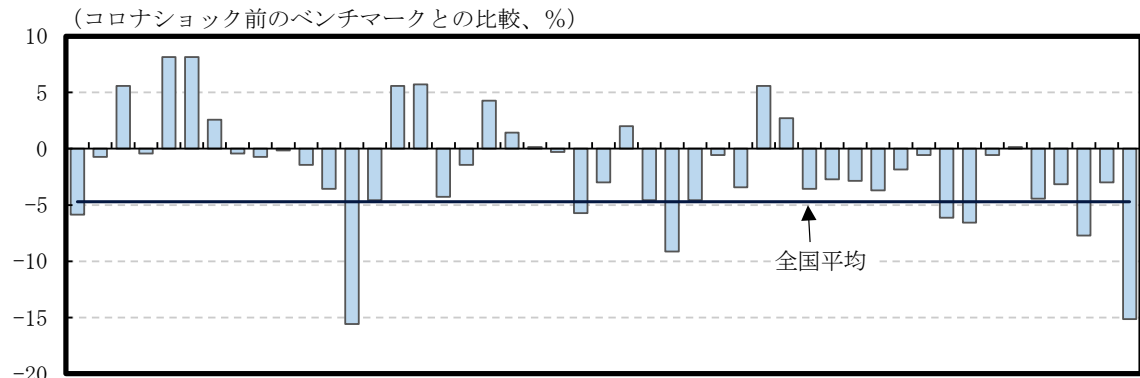


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。

外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

(出所) 総務省統計、Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出 (10/24~10/30 平均、都道府県別)



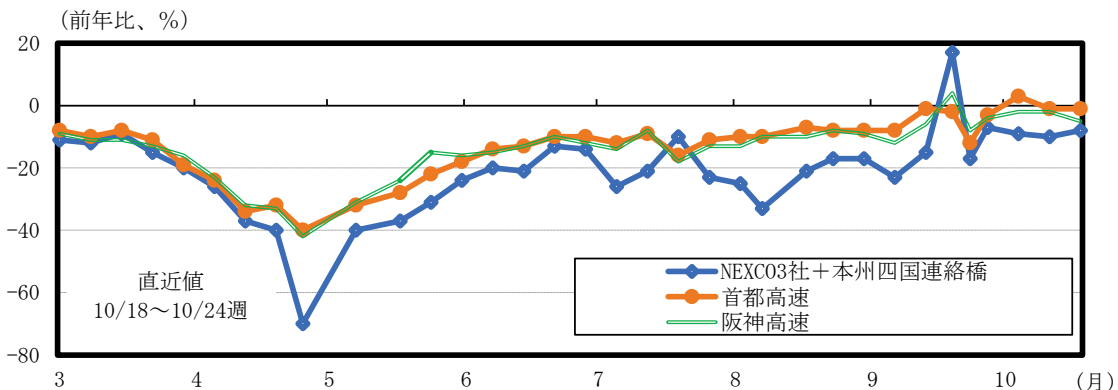
北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖  
海森手城田形島城木馬玉葉京奈湯山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄  
道 川 山 島

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

<参考：高速道路交通量>

図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィークの前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成